

平成15年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」表彰団体概要

しわちよう **紫波町 (岩手県) 人口 約 34,000人 面積 :239.03km²**

紫波町は岩手県のほぼ中央に位置し、東に北上高地、西に奥羽山脈が縦走しておりこれらの山々を源流とする河川からの水が町の中央部を南北に流れる北上川に集まる地域にある。

平成12年にイベント「環境新世紀」が開催され3千人以上の町民が参加、地域の自然など身近な環境について学習し、これを契機にNPO法人紫波みらい研究所が設立され環境学習が継続的に行われている。また、食品関係事業所より排出される生ごみと畜産農家の畜糞を堆肥化して良質な土づくりによる農業を行うことで、農作物・特産品の紫波ブランド化の取組を行っている。

URL <http://www.town.shiwa.iwate.jp/>

さかどし **坂戸市 (埼玉県) 人口 約 99,000人 面積 :40.97km²**

坂戸市は埼玉県のほぼ中央に位置し、市の西部に一部丘陵地が広がるものの、ほぼ平坦であり、高麗川と越辺川が流れる水辺環境に恵まれた地域である。また、東京都心から45km圏内にあり、ベッドタウンとしての性格が色濃いまちである。

太陽光や雨水等を利用した環境学館いずみを拠点として独自の環境学習プログラムを作り、あらゆる世代の環境教育を展開することで、今ある環境を次代につなげる橋渡しとなる取組を行っている。また、市民ボランティアが講座の企画段階から開催・運営に至るまで積極的に関与しているだけでなく、行政・企業・大学との協働も幅広く進めることにより、市民発の環境保全活動の拠点としての機能が発揮されている。

URL <http://www.city-sakado.com/>

ひのし **日野市 (東京都) 人口 約 170,000人 面積 :27.53km²**

日野市は東京都のほぼ中央に位置し、沖積低地、日野台地と比較的起伏に富んだ地形であり、崖線や丘陵地の斜面などに緑がよく残されている。

市民とのパートナーシップを昔から大切にしており、まちづくりは市民が主人公であると考えて取組を行っている。環境条例制定を直接請求により働きかけるなど、市民の環境に対する意識も高い。2000年には、市の職員が、延べ3万人以上の市民と直接話し合いを行うことにより、ごみの約50%減量に成功し、現在も成果を維持している。また、緑地信託制度として市が雑木林の管理を行うと共に、その管理活動に市民グループがボランティアとして参加している。用水についても同様にボランティアによる管理を行っている。

URL <http://www.city.hino.tokyo.jp/>

たけふし

武生市 (福井県) 人口 約 74,000人 面積 :185.32km²

武生市は福井県のほぼ中央に位置し、市街地の周辺部は田園が広がり、古くからの田園集落の景観が残る一方、工業団地や小規模住宅団地が造成されている。また、武生市は伝統産業から先端産業まで幅広い業種を有しており、製造品出荷額が県内トップの工業都市である。

平成11年に県下で初めて環境基本計画を策定し、平成12年にはISO14001認証を取得した。また、小規模事業場においても環境改善システムに取り組めるよう、武生市独自の環境改善システムの規格である「ESたけふ」を市内企業との協働により構築し、同規格への参加を呼びかけている。また、「たけふ環境認証機構」を設立し、システム構築講座、コンサルティング、認証審査を行うなど、住民・企業・行政が一体となり、市全体で環境保全活動の促進に取り組んでいる。

URL <http://www.city.takefu.fukui.jp/>

あさごちょう

朝来町 (兵庫県) 人口 約 7,300人 面積 :130.2km²

朝来町は兵庫県のほぼ中央に位置し、山林が面積の93%を占めている緑と水の豊かな中山間の分水嶺・源流域にある町である。近年は都市との交流型ハード・ソフト事業の展開と交通網の整備により、美しい自然を求めて多くの人々が訪れている。

まち全体をオープンエアミュージアムとする芸術の森構想を中心に取組を行っており、「芸術・自然・技術」の調和空間としてダム周辺地域の環境を整備し、観光スポットとして観光客も増えている。水源・清流は豊かな自然と調和し、地域経済の活性化と地域の誇りを高める効果をもたらしている。これは、地域住民が常に心地よい景観・環境を保とうという意識を持った取組につながっており、環境保全活動と地域経済活動が良い影響を与え合っている。

URL <http://town-asago.jp/>

ゆすはらちょう

梶原町 (高知県) 人口 約 4,500人 面積 :236.51km²

梶原町は高知県中西部の愛媛県境に位置し、四国山地に抱かれた四万十川源流地域の一画を占める面積の91%が森林の山村である。後背地には四国カルスト高原が連なり、四万十川の源流である梶原川及びその支流沿いにわずかな平坦地が点在している。

住民との意見交換会において住民より提案された風力発電の設置を実現するだけでなく、風力発電での売電収益を環境基金としてプールし、森林整備事業や住宅用太陽光発電設置事業の助成に役立て、さらに環境を良くして、こうい取組が行われている。また、地下100mからの地熱を利用し、雲の上にある温泉・温水プール・レストランの加温・暖房・給湯のエネルギーの7割を賄っている。住民の環境に対する意識の高さを踏まえた「環境整備デイ」などを立ち上げ、次代を担う人材を育成するとともにコミュニティに根ざした環境への取組も実践している。

URL <http://www.town.yusuhara.kochi.jp/>